

視聴覚教育

視聴覚機器保有調査の報告

視聴覚部研修委員会

NO. 226

発行日 8. 10. 1

発行 岡崎市AVL
編集 広報委員会

視聴覚用語

『デジタルカメラ』
通常のフィルムではなく、画像を電気信号に変換して専用のディスクなどに記録する。直接モニターかビデオプリンターで画像を再生するカメラ。パソコンなどに画像を取り込むことも可能。

教研集会報告

Ⅱ 視聴覚教育あれこれⅡ

去る九月十九日（木）、第四十六次岡崎市教育研究集会が開催された。視聴覚部会は福岡中学校において行われ、助言者に名古屋大学助教授の大谷尚先生をお迎えした。参加者三十一名により「個性を大切に、人間性豊かでたくましく生きる子供を育てるための視聴覚教育のあり方を追究しよう」をテーマに、熱心な報告や討論が行われた。発表されたリポート十三点の内容を分類すると次のようになる。

・ 学習効果を高める視聴覚教材・機器や放送を活用した実践 (4)

・ パソコン機能の理解とそれを活用した実践 (4)

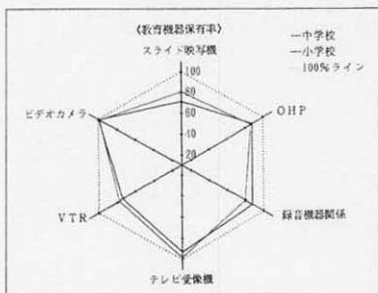
・ マルチメディアの理解とそれを活用した実践 (3)

・ 校内放送の充実をめざした実践 (2)

・ 助言者の大谷先生には、丁寧な御指導、御助言をいただき、次のような言葉でまとめられた。

情報革命が予言される今、インターネットが黒船として登場してきた。やがて大きな不慣れた世界が押し寄せ、学校のスタイルも学習観も変わってくるだろう。

なお、父母と教師の教育を語る会（県教研）には、藤川小学校の小田哲也先生、城北中学校の森竜師先生が選出された。



視聴覚部研修委員会では、平成八年六月末に各学校の視聴覚機器の保有状況を調査した。調査の内容は、「機器保有状況と保有率」「使用頻度の高い機器」「今後、充実を希望する機器」の三項目である。詳細は、年度末に刊行される『岡崎の視聴覚教育（第二十八号）』に掲載するが、ここでは、その概略を述べる。

規模による標準品目基準数に対する割合である。VTRは、昨年よりも保有率が上昇したものの、他に比べて低い状況が続いている。利用頻度も高いことから早急に充実させていこうとする学校が多い。ビデオカメラ、テレビ受像機、教材提示装置

置などの保有率が高く、テレビ画面を通しての視聴覚教育が主流となつてきているようである。ビデオカメラは、高い保有率を維持しているものの新製品の開発に伴い、多機能・高画質を求める傾向が強く、多くの学校で充実させたい機器として考えている。

また、CDの利用が一般的になり、録音機器はCD付きのものが主流になっている。手軽に教材の作成や記録ができるデジタルカメラに注目が集まっていることも本年度の特徴である。

《使用頻度の高い機器》

機器名	小学校	中学校	合計
VTR	30	15	45
録音機器(CD付を含む)	35	7	42
ビデオカメラ	12	17	29
テレビ受像機	23	3	26
教材提示装置	12	6	18
OHP	2	4	6
パソコン	1	3	4

(アンケートの集計より主な機器のみ掲載)

《充実したい機器》

機器名	小学校	中学校	合計
VTR	20	13	33
ビデオカメラ	19	7	26
デジタルカメラ	12	5	17
録音機器(CD付を含む)	10	5	15
教材提示装置	7	4	11
ビデオプロジェクター	7	3	10
OHP	9	1	10
テレビ受像機	6	1	7



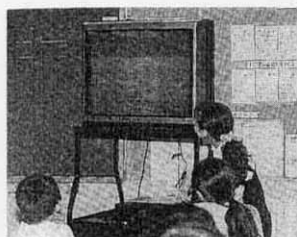
ビデオ・LD教材を活用した授業

六ツ美南部小学校 鈴木 金利

本校では、『地域教材を取り入れた体験的な学習』を重視し、社会科、生活科、理科の各教科で研究を進めている。

社会科六年生の単元「天下統一を目指した三人」の授業では、一人調べの段階でLD教材を活用した。この単元では、直接体験をさせる学習を行うことが困難なうえに、子供たちの一人調べもどうしても図書資料にかたよりがちになる。そこで、意図的に映像資料と出会わせることによって、文字より得た情報を補うことができるように考えた。

「天下統一をした秀吉」の授業においては、秀吉の築いた大阪城の金の茶室をLD資料を用いて子供たちに提示した。金の茶室の映像を見た子供たちは、建物だけでなく、茶道具にいたるまで金で作られていることを目のあたりにし、秀吉の権力とその示威行為に対し驚きをもって学習を進めることができた。さらに検地について考えたとき、子供たちは権力という視点で活発な意見交換を行うことができた。間接的な体験ではあるが、LDの映像資料を読み取ることで、深い追究活動を進めることができた。



歴史学習では、子供たちが実際に手を触れたり、直接的な体験を通して学習を進めるということが難しい。映像資料も間接的な体験ではあるが、その出会わせ方と意味付けを十分考えることで確実に効果を上げることができる。

今後、直接体験とともに映像資料を単元の中に効果的に位置付け、子供たち自身の手で視聴覚メディアを活用できるように場の設定をしていきたいと考えている。

小学校放送コンテスト結果

第十回小学校放送コンテストが、八月二十七日（火）名古屋市教育館で行われた。岡崎市の結果は以下のとおりである。

《アナウンス部門》

・優良賞 永田早佑理（緑丘小）

・優良賞 井上 幸栄（井田小）

・優良賞 小林 優子（井田小）

《朗読部門》

・最優秀賞 中尾真理子（藤川小）

・優良賞 坂本 瞳（藤川小）

審査員の講評として次のような御指導をいただいた。今後の指導の参考にしてみたい。

- ・人に伝えるメッセージだから、内容を十分に理解して自分のものにした上でアナウンスしたい。
- ・発声や発音の基礎訓練を重ねたい。語尾の処理にも気をつけたい。
- ・アクセントや無声化、鼻濁音など機械的な部分は練習すればできるようになる。

ライブラリーだより

☆移転にかかわる業務の停止について

このたびの視聴覚ライブラリーの、太陽の城から岡崎市情報ネットワークセンターへの移転にともない、次の業務について停止期間を設けますので連絡します。

一 停止する業務内容と期間

○ 自作ビデオなどのダビング

平成八年十月十五日から

平成八年十一月十日まで

○ 視聴覚機器や教材の貸し出し

平成八年十月二十二日から

平成八年十一月十日まで

二 その他

・ 停止期間前でも、ダビングや貸し出しにつきまして早目にご連絡ください。

・ 停止期間中でも緊急の場合などには一度ご相談ください。

☆自作TP作品募集

本年度の自作TP作品募集

の締め切りが、十月十一日

（金）に迫っています。 応

募規定、応募方法、応募先につ

いては、月報「視聴覚教育」

九月号（No.225）でお知らせし

たとおりです。

奮ってご応募ください。

